

# おせったいひき

大野城市教育委員会



大立寺の大師堂

てなしをしました。

これが牛頸の「おせったいひき」のはじまりです。

弘法大師への信仰が始まったのは江戸時代でした。人々は毎月21日にお大師様をおまつりするため集まりました。そのうちにおしゃべりをしたり手料理を持ってきたりと、なんの娯楽もない時代、いつしかこの集まりが農家の人々にとっての楽しみ場となっていました。

現在10ヶ所11地区で行われている「おせったいひき」ですが、どの地区でも女性が笑顔で出迎えてくれます。お大師さまのおまつりは女性のおまつりでもあります。子どもを連れてきた女性は「神様にお参りできて、おばあちゃんたちと触れ合える素敵な行事だと思う。」と話していました。

牛頸の子供たちは毎年4月21日を楽しみにしています。この日は学校が終わるとすぐに大きな袋をもって、牛頸中をまわります。途中に出会えば情報交換をしながら全地域制覇を目指します。4時過ぎには袋いっぱいにお菓子を詰め込んだ子どもたちのうれしそうな顔に出会えます。

4月21日は「お大師様の春まつり」です。昔、白いハッピを着て篠栗詣でを終えた人々が、その報告に牛頸の各地区をまわりました。誰もがお参りに行けなかった時代、ご利益のおすそ分けを兼ねていました。迎える人たちは労をねぎらい感謝の気持ちを込めて、ご馳走を準備しておも



堂ノ本のおせったいひき



井手のおせったいひき

地元の人を中心となって行なわれていますが、転入してきてから長く住んでいる方には「一緒におまつりをしませんか。」と声をかけて地区のみんなで取り組むようになっていきます。転入してきたばかりの方は、子どもがお菓子をもらって帰ってきた時は、びっくりしたと話していました。しかし、そんなお母さんもそのうち子どもにお菓子を渡すようになることでしょう。

お参りは、まずお賽銭をあげて神様に手を合わせます。その後好きなお菓子をもらって帰ります。そのお菓子は神様にお供えされたもので、とてもありがたいものです。しかし、



弘法大師像

最近この行事の由来を知らずにお菓子をもらうために訪れる子どもも多いということでした。

その昔、子どもの顔を見ると親がわかり、子どもの成長を見るのが楽しみだったというおばあさんもいました。「これからはずっと続けて欲しいし、自分の次はお嫁さんに継いでほしい。」と話していました。

地元の若いお母さんは「自分の先輩が大切にしてきた行事で自分もお世話になっているので、自分もこの行事を続けたいと考えています。」と話していました。

この行事の意義付けは変わってきましたが、人をもてなす心は受け継がれているようです。「牛頸おせたいひき」は各地区がそれぞれの真心で子どもたちに接するという大切な春の行事として根付いています。



おせたいひきの行われる場所